

北海道教育委員会教育長 様

北海道枝幸高等学校長 小 原 茂

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

地域と学校がともに学ぶ取組を通して、安心して学び、挑戦・成長できる場をつくる

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導について Q1・2・3・4	授業は概ね良好だが、学力実感や個別支援、家庭学習の定着に課題があり、可視化と改善が必要。	学習アプリの効果的な活用等、小規模校の「強み」を活かした学習指導・探究活動支援を期待する。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業に振り返りや自己評価を取り入れて理解度を確認する機会を増やす。 放課後学習等の内容を整理し、生徒・保護者に分かりやすく伝えて支援体制を可視化する。 観点別評価や学習目標を丁寧に説明し、学習と評価を共有することで安心感と意欲を高める。 	
生徒指導について Q5・6・7・8	指導体制は安定しているが、基準や意図の伝達に課題があり、丁寧な説明と周知が必要。	教育活動を通して、生徒と良好な関係を築くための適切な関わり方・距離感を模索して欲しい。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導方針を分かりやすく整理し、教職員間で指導の考え方や基準を共有する 教職員研修の機会を充実させ、共通理解に基づいた対応を行う 事案発生時には指導の意図や対応を丁寧に説明し、保護者の理解を得る 	
進路指導について Q9・10・11	進路指導は概ね良好だが、情報提供や低学年の見通しに課題があり、体系化が必要。	「進路選択」に関わる指導だけではなく、生徒が社会の中で豊かに生きる力を育む指導を期待する。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 段階的な進路指導を計画的に行い、ガイダンス等を通して将来を考える視点を育てる。 進学・就職に関する情報を適切な時期に整理して提供し、生徒が理解しやすい形で伝える。 保護者へ支援内容を積極的に発信し、家庭と連携した進路指導により不安の軽減を図る。 	
健康・安全指導について Q12・13・14	安全管理は概ね適切だが、取組の認識や緊急時対応の共有に課題があり発信強化が必要。	緊急時対応等、引き続き関係機関と連携した健康・安全指導を推進して欲しい。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導・安全指導の目的を分かりやすく示し、日常的な取組の重要性を発信する。 事故やトラブル発生時には、迅速な連絡と丁寧な説明を徹底し、安心感につなげる。 健康・安全を守る意識を育て、組織的に安全管理に取り組む。 	
地域連携について Q15・16・17	保護者連携は良好だが、地域との目的や成果の共有が不十分で、発信の工夫が必要。	探究を中心に地学協働が推進したことは評価できる。取組内容の情報発信をさらに工夫して欲しい。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携の目的や意義を分かりやすく伝え、学習や生活とのつながりを意識した取組を行う。 地域との関わりについて、事前・事後の振り返りを行い、学びを深め成果を発信する。 学校運営協議会等の内容や成果を共有し、学校運営への反映を示すことで信頼関係を深める。 	
学校運営について Q18・19・20	校内連携は機能しているが、重点共有や業務改善に課題があり、見直しが必要。	先生方が生徒と関わる時間を創出できるように業務量の適正化を望む。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校方針や重点事項を年度当初に整理し、分掌・学年ごとの役割を明確にする。 新たな取組の導入時には、既存業務の見直しを行い、業務量の適正化を図る。 保護者や地域に対して丁寧に説明し、理解と協力を得て安定した学校運営を目指す。 	
教職員の姿勢 Q21・22・23・24	意欲的に取り組んでいるが、連携や発信に課題があり、組織的な支援強化が必要。	教職員の姿勢は評価する。今後も地域や関係機関等と積極的に連携して欲しい。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 個々の努力に頼らず、組織として支え合う体制を整え、業務見直しにより教育活動に向き合う時間と余裕を確保する 分掌や学年を越えた情報共有を進め、悩みや課題を一人で抱え込まない職場環境をつくる 	
公表方法	学校HPに掲載	

3 添付資料

・令和7年度「学校評価」アンケート集計